

**B・O・C・C**  
Beauty Opinion &  
Communication Club

美容情報新聞  
B・O・C・C【ブック】  
〒106-0032  
東京都港区六本木3-4-33  
マルマン六本木ビル3F  
http://www.bocc.biz  
fax. 03-6868-5679

No.19

2018.11.20発行

# 美容の可能性を 考ええる



## ——美しく、幸せな人生の道を拓くために

3年間の集大成として、美容がますます大切になってくることを示せないだろうか？ という思いがありました。

そのときに思い浮かんだのが、東北大学大学院の阿部恒之教授が講演で見せた1枚のポスターでした。

東日本大震災の被災者が映っているポスターに「お化粧をして立ち向かう」というコピー。

今年は異常気象で大きな災害が次々に起こりました。日常生活が破壊されていく、早く日常を取り戻したい——そんな思いを美容に託すポスター。

美容のチカラがこれほど鮮明に表されたものは、いままではなかったでしょう。

そこで私たちは、阿部教授と「BOCC」紙上でご登場願った駒沢女子大学の石田かおり教授の対談を企画しました。

化粧心理学の分野を確立された阿部さん、哲学の現象学から美容を研究された石田さん。

お二人ともに「美容の社会的地位が上がってきた」と感じておられます。猛暑だった夏、早めに設定された対談——。

そこで語られたことは、これからの美容の可能性を示唆するものでした。

**特**

特集対談

人の「心」や「生き方」を変える  
「美容の大きなチカラ」

阿部 恒之(東北大学) VS. 石田かおり(駒沢女子大学)

**OP**

次世代リーダーのOPINION

お互いの信頼を削りながら  
美容業界の想いを集中させたい

田尾 大介(株式会社アリミノ)

**最**

最終号メッセージ

時代の変化に合わせて  
自分の代の役割を私なりに果たしていきたい

蒲生 典子(株式会社ガモウ)

※Beauty Opinion & Communication Club の許可を得て掲載しております。

(この画像は、当該ページに限り Beauty Opinion & Communication Club の記事利用について許諾いただいたものです。)

## 特集対談

人の「心」や「生き方」を変える  
「美容の大きなチカラ」

— 心理学、哲学から「美容の価値」を考える —



資生堂で、化粧・美容が人に及ぼす効果や影響を研究してきた阿部さんと石田さん。  
大学教授になってから、さらにそれを深堀りし、  
美容の持つ「価値」や「チカラ」を世の中に積極的に発信し続けている。  
そんなお二人が思う、これからの美容の可能性とは——。

東北大学大学院教授  
一般社団法人美容の価値を考える会理事長

阿部 恒之さん

駒沢女子大学教授  
資生堂客員研究員

石田 かわりさん

100年、200年先を見据えた  
美の発信に向けて

— 大学で阿部さんは心理学、石田さんは哲学を学ばれたわけですが、入社した資生堂からは何を求められたのですか？

**阿部** 二人とも配属されたのはビューティーサイエンス研究所(以下・BS研)です。私はBS研がスタートした1985年の入社。心理学関連のスタッフも必要ということで採用されました。

試行錯誤しながら化粧心理学、化粧や美容が人にどんな効果があるのかということの研究しているときに、石田さんが入ってこられた(笑)。

その後、母校の東北大学大学院に社会人ドクターコースが新設され、BS研に在籍したまま大学院生になりました。



プロフィール

阿部恒之／新潟県生まれ。東北大学出身。資生堂ビューティーサイエンス研究所に在籍のまま東北大学大学院に編入学し、心理学で文学博士取得。その後、同大へ移り、現在、大学院教授。心理学の手法で化粧・美容にアプローチし、人の心を与える影響などを軸に研究を展開している。実証データに基づく研究成果は授業で活用するだけでなく、化粧療法の発展に貢献している。昨年、一般社団法人美容の価値を考える会理事長に就任。著書「ストレスと化粧の社会心理学」(フレグランスジャーナル社)など多数。

**石田** 私が入社したのは1992年。阿部さんの7年後輩です。入社時に研究所長から言われたのは、「これから100年、200年と会社が生き残っていくには、どういふ美を発信すればいいのか。トップ企業として研究していきたい。あなたは哲学を博士課程まで勉強したのだから、できるのでは」と言われました。今まで大学で学んだことが活きるんだ、とうれしかったですね。

人間にとって化粧・美容とはどんな意味があるのか。人間はそもそもなぜ化粧するのか。自分のアイデンティティにどんな影響を及ぼすのか。「そもそもなぜ?」を追求する学問が哲学。そういうことで自分を活かそうと思いました。

**阿部** 当時のBS研はスタッフ100人ぐらい。半分はマサ大竹さん(現・資生堂美容技術専門学校校長)など美容師さん、あと半分が私たちのような研究者でした。

**石田** スタッフは多彩でしたね。色彩光学とか肌の専門家、美容師や理容師の資格を持ちながら官能評価(人の五感でモノの特性や、人の感覚そのものを測定する評価法)ができる人とか、いろいろな人材がそろっていました。

化粧の負のイメージを  
研究で変えたかった

—BS研でいろいろ研究され、その後お二人は大学教授になりました。

**阿部** 私は21年間、BS研にいて2005年に資生堂を退職し、母校の東北大学大学院に赴任しました。

**石田** 私はBS研に8年いて、2000年4月から駒沢女子大学です。

**阿部** 会社にいたときは、化粧・美容しか研究対象がなかったわけですよ。

正直、大学に行ったらそこから足を抜く気満々でした(笑)。

ところが、私に教わりたいという学生は、おおむね「化粧や美容の研究がしたい」と(笑)。

**石田** この先生は資生堂と親しいと思われているわけですよね(笑)。

**阿部** 抜けるに抜けられず、という状況が続いているうちに、私がいちばん社会から期待していただいていた、まとまった話ができるのは、やはり化粧や美容の領域。足抜けは間違いだと思い直して(笑)今があります。

**石田** 阿部さんは化粧心理学というジャンルを創られた。その分野の第一人者だと思います。

**阿部** ありがとうございます。私がBS研に入った85年当時は、化粧・美容の役割や価値が新たな段階に進んで行く時代でした。

70年代までは、日本もアメリカも化粧品は「悪」であるというイメージがかなり強かった。虚飾とか肌を害を与えるということですよ。

そんな中で79年にアメリカの化粧品学会でシンポジウムがあり、化粧は健康や福利厚生に役立つという研究成果が発表されました。それまでは、美しさと健康は相反するものという見方が強く、BS研では化粧の負のイメージを変えたいと思っていました。

今は外見を変える、つまり容姿を美しく整えることで、それが健康にも好影響を及ぼすということが実証されています。化粧療法につながる考え方ですね。

**石田** 私がBS研に入った92年当時、紫外線が光老化を起し美容上悪いという知識が日本でも急速に広まり、研修でセールスマンに同行して営業をしたとき、化粧品店に貼ってあ

た資生堂のポスターが「私は守る」というUVホワットのCMだったのを覚えてます。

それまでのCMは、夏になるとビキニの女性が焼けた肌を見せ、日焼け用のファンデーションやサンオイルなどを宣伝していました。それがガラッと変わり、紫外線の防御から始めて、健康に役立つとか免疫力を高めるなどの研究結果があちこちで言われるようになりました。化粧・美容の社会的地位が上がってきた、ということを感じましたね。

化粧・美容の可能性が  
大きく変わる時代へ

**阿部** 石田さんが入る前に、当時の資生堂社長・福原義春さん(現・名誉会長)が「オーストラリアなどの研究結果を見ても、今や紫外線の害はこれ



プロフィール

石田かわり／神奈川県生まれ。お茶の水女子大学大学院出身。資生堂ビューティーサイエンス研究所を経て駒沢女子大学へ、現在、駒沢女子大学教授・資生堂客員研究員。哲学の方法による化粧文化や身体文化の研究で被服環境学博士取得。「きれい」を学問する。コンセプトに、日本舞踊藤間流師範名取を活かした授業や、資生堂の協力を得た化粧実習授業も好評。学問分野としての「化粧文化」や、価値観としての「スロービューティー」の提唱と普及活動に努めている。著書「化粧せずには生きられない人間の歴史」(講談社)など多数。近年、AIの哲学と美容の研究に着手。

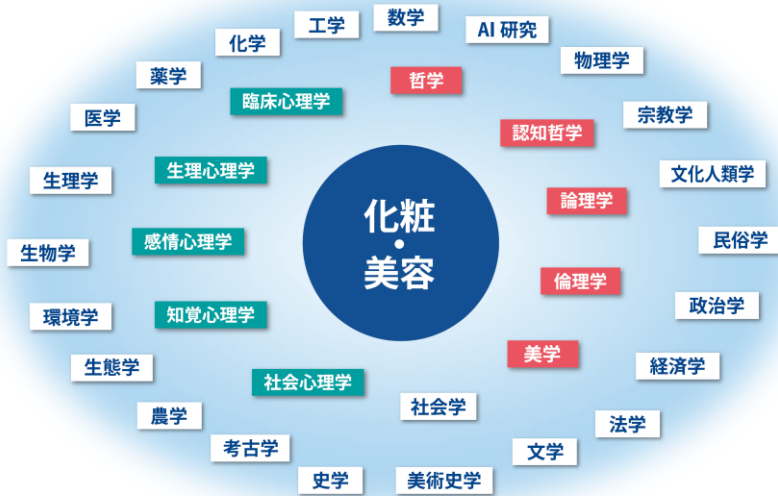
※Beauty Opinion & Communication Club の許可を得て掲載しております。

(この画像は、当該ページに限り Beauty Opinion & Communication Club の記事利用について許諾いただいたものです。)



## 化粧・美容を囲む学問領域

阿部、石田両教授に、「化粧・美容」考察に関わる学問を出してもらい、それを統合した図。  
■色は阿部さん、■色は石田さんの関連分野。



だけ言われている」と、89年からサクセスエイジングフォーラムを始めました。

でも私は、絶対にサンオイルなどがなくなることはあり得ない、と思っていたら、企業としては本当に舵を切り、紫外線防御の商品開発を中心とするサクセスエイジング活動を地道に続けるようになりました。

**石田** 私が入社した時は、すでに化粧品も機能競争の時代に突入していました。阿部さんが言われた紫外線防御などが、化粧品の効能にも使われていましたよね。

**阿部** 90年、京都で開かれた国際応用心理学会で、化粧療法を提唱されていた同志社大学の浜 治世先生(故人)が「統合失調症、老人性認知症、うつ病などの方にメイクが効果がある」ということを発表され、国内外からすごく注目されました。それが新聞などで報道され、化粧療法が広まっていったわけです。

そんな流れを受けて、1991年、東北大学で開かれた日本心理学会の大会で、BS研が「化粧心理学のパラダイム」というワークショップを行い、化粧・美容の可能性を世に問いました。

**石田** その後、資生堂がそれまでの研究成果をまとめた本「化粧心理学——化粧と心のサイエンス」93年BS研編・フレグランスジャーナル社を出版。化粧・美容の新しい役割、価値を打ち出す契機になりました。(編集部・注「美容の価値を考える会」設立のきっかけにもなった本)

**阿部** その本で、私は編集実務と「エステティックマッサージによって変わる心とからだ」などを書き、石田さん

は「化粧することの理由を考える——現象学から見た化粧」を執筆。

また、浜先生にも、「化粧の力——化粧のもう一つの役割・メーカーシップの臨床心理学への適用」という原稿を書いていただきました。

### いろんな可能性を持った とっっても面白い研究対象

——大きな時代の変化があり、化粧や美容の役割、価値が様変わりしていく中で、お二人は大学教授としてさらに美容を深堀りされてきました。それは何だったのか？ それほど美容に魅せられたということですか？

**阿部** 化粧・美容はネタが豊富なんです。しかも学問として過去あまり本気になってやられていない(笑)。たとえば、メイクでなぜ目が大きく見えるかというのは知覚心理学のテーマになります。

お年寄りにどう効くか。これは臨床心理学、社会心理学的テーマ。スキンケアのリラクゼーション効果は生理

心理学のテーマになります。このように、化粧・美容を真ん中に置いて、心理学のすべての領域を周りにグルッと置くことができます。

**石田** 心理学だけではなく、私の専門領域の哲学はもちろん、文学の中で描かれている化粧、美術、社会学、歴史学、経済学、政治学、自然科学等々……。化粧・美容は本当にいろんな分野にまたがっています。

——学際的ということですか？

**石田** と言うより、学問全体のどの方面からもアプローチできるのが化粧・美容ということではないかと思えます。

**阿部** ある意味、ユニバーサルなんです。学際的とか他のものがくっついてジョイントするということではなく、化粧・美容を真ん中に置いて何でも溶かし込んでいく、いろんな可能性を持った、とっっても面白い研究対象です。

それは化粧・美容の可能性でもあります。

**石田** 今まで誰も学問の対象になると思っていなかったわけです。だから、何百年も放ったらかしにされてきた。ところが、そこにすごい未知の大陸があった、ということが最近やっと認知されてきたんじゃないでしょうか。

**阿部** 金鉱脈が身近にあったのに、誰も気づかなかった。気づいたら、そこに私たちが置かれていた(笑)。

私も石田さんも、資生堂にいたということがすごいメリットになっています。一応曲がりなりにもメーカーにいたものだから、門前の小僧で、化粧とは何かということに触れている。

それなしに大学に入って化粧とかやっても、「あなた、化粧の何を知ってるの?」と言われてしまいます。すると、絶対たじろいでしまうと思うんですけど、私たちにそんなことを言う人はいない。これは大きなメリットです(笑)。

### アイデンティティの自認に 化粧・美容は関わっている

——化粧、美容を真ん中に置くと、いろんな学問があるわけですね。

**石田** それを真ん中に置けば、哲学からいろんなアプローチがあります。

**阿部** 石田さんが哲学領域で化粧・美容を扱ったというのは革命的ですね。「現象学的化粧論 おしゃれの哲学」(理想社)。これは化粧の現象学に関する石田さんのいちばん最初の本ですね。

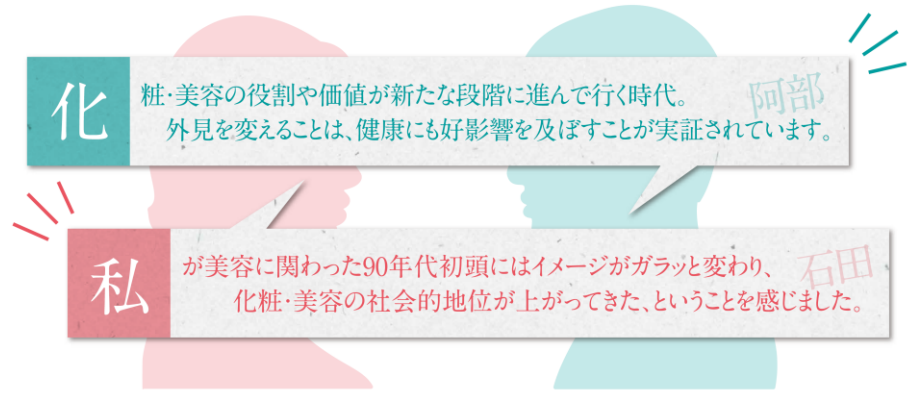
化粧に関する哲学的書籍を一冊ものにされて、「あつ、なるほど、この道もあるか」と、今でも私、本棚に置いてあります。

**石田** ありがとうございます。

——今まで美容の研究をされてきて、いちばん得たものは何ですか？

**石田** 人間の存在の根幹、アイデンティティに関わるのが化粧・美容だと気づいたことです。

化粧・美容の役割を哲学的に言う、自分は何者かというアイデンティティの自認ということがいちばん。自我の確認ですね。人は化粧・美容で



※Beauty Opinion & Communication Club の許可を得て掲載しております。

(この画像は、当該ページに限り Beauty Opinion & Communication Club の記事利用について許諾いただいたものです。)

自我を維持し、修正、更新していく。外見を変えることで新たな自我像が形成され、補強、修正され新しい自分を確認できる。その応用が化粧セラピーです。

ところが、自我はものすごく揺らぎやすくフラジャイル(壊れやすい、もろい、はかない)なものなんです。人は不安になるから、常に私というものを確認しておかないと落ち着かない。

確認の大きな手段として、視覚、触覚。鏡を見る。手で触れてみて自分の輪郭を知る。そういうことで人は安心する。そこに化粧・美容が関わっています。

### 化粧・美容は心身の健康にいい影響、効果を与える

**阿部** 私は美容と深い縁があります。ウチは母親が高齢で美容室をやっており、夕食の後、ワインディングペーパー、当時はパーマ紙と言っていました。一家そろってそれを伸ばすことを、ちっちゃい時にやっていました。当時はまさか自分が将来そういうことに関わるようになるとは夢にも思っていなかったです(笑)。

大学でも、お釈迦様の手のひらの中と言うか(笑)、化粧・美容がどこまでも追ってくる。どこに行っても、自分の目の前には常に美容がある。妻も美容師です(笑)。

——そういう阿部さんが研究でいちばん得たものは何ですか？

**阿部** やはり、化粧・美容が人の心身の健康にいい影響、効果を与えるということですね。

たとえば、エステマッサージの研究。それで気持ちや身体はどう変わるかという研究です。それを86年、名

古屋の日本心理学会で発表したら、浜先生(前出)が「私も化粧の研究をやりたい」とおっしゃった。それで同社社とも研究するようになりました。

メイクもそうですね。外見を変えると内面が変わる。最大効果は化粧療法で、効果を確実に確認できたのは、統合失調症・うつ病・老人性認知症・顔面神経麻痺。

老人性認知症患者への試みでは、四国徳島の鳴門山上病院の山上久先生が、認知症患者に週一でお化粧の目を設け、アクティビティケアで「3割のおばあさんがオムツを外すようになった」と新聞で報道され、私も勉強のため徳島に飛んで行きました。

山上先生にお話を聴きしたら、国際心理学会での浜先生のお話を聞いて始めたとのこと。元をたどれば、私のマッサージ研究に端を発したということで、大笑いしたものです(笑)。

### 震災後に お化粧をして立ち向かう。

——化粧・美容は震災など自然災害や戦争などの被災者を元気づける効果があるとも言われています。

**阿部** 2011年3月11日に起きた東日本大震災の時も「復興の狼煙(のろし)」というポスタープロジェクトがあり、被災者を撮ってコピーを付け、それを販売して被災地に還元するという試みがあったんです。

たとえば、女性が二人、湖の前に立っていて「お化粧をして立ち向かう。」というコピーが付いている。被災地で着の身着のまま、お風呂にも入れない。「ふと口紅一本引いてみた

ら、前を向いて立ち上がる勇気が出ました」——そんな被災者へのインタビューが背景にあって、そのコピーが出来上がったと担当プロデューサーから聞きました。

**石田** 資生堂がボランティアを東北に派遣。被災者にメイクしたら、「普通に戻れる、日常を取り戻せる」と感謝されたそうです。

また、海外では戦火の女性を支援するボランティア団体が当人たちにはしるものを尋ねるところ、生活必需品ではなく、口紅・スカーフ・アクセサリーという答えが返ってきて驚いたという話もあります。

大災害や戦争など、非常時でも一瞬にして日常に戻れる。そうした実例がすごく印象に残っています。化粧・美容の力でしょね。

**阿部** 被災者にハンドマッサージをしたり、口紅を塗る。それが女性にすごく喜ばれる。でも、町内会長とかの男性からは「この非常時に宣伝に来るとは何事か」と言われたが、だんだん価値がわかってきて、ありがたがられたということです。

避難者でも日常的楽しみが必要なんです。「聖人君子を期待しないで」と言いたいですね。

**石田** 病院の入院患者とかもそうですよね。患者はメイクを楽しめない。スキンケアさえダメ。そんなところが多いんじゃないでしょうか。

**阿部** メイクすると顔色が見えなくなるから困る。そのほうが管理しやすいから、メイク禁止が多いけれど、メイクしたほうが元気になる、回復が早くなるという積極的な可能性を認識してもらうことが重要。

メイクは普通の暮らしの大切な要

素。普段の行為をやり日常を取り戻す。化粧はそのきっかけ、心のスイッチです。

有事から平時へ、切り替える心のスイッチ。平時を回復させる、ささやかな日常の楽しみ。病気、震災など天変地異、戦争……。そんな時だってきれいでいたい。いや、はげみを求めるのは人間の本能です。それだけ人にとって大切なものですよね。

今まで化粧・美容には「こういう効果がある」と言い続けてきて、やっぱり本当にそうだったんだと、自分の言っていることが、いろんな現場で実証される。それを私たちは目の当たりにしてきました。

**石田** 私はかつて、人間関係で摂食障害っぽい状態になったときや、母の介護で体調を崩したときなど、本当につらいけど仕事に行かないと収入がなくなるので、とにかくお化粧して髪を整えてみると、気持ちが上がり人前に出られた経験をしています。

化粧が自分の背中を押してくれ、家から一歩外に出させてくれる。そんな化粧の力を、自分でも実感しました。

### 近くに総合プロデューサー的 美容師がほしい

——美容師という職業は、これからどうなると思いますか？

**阿部** 個人の姿かたちをプロデュースする職業というのは、残るでしょうね。AIがさらに進化し、AIロボットみたいな世界になったとしても。

**石田** 阿部さんのおっしゃる通りで、プロデュース業というところでプロの力というのはすごく大きいと思いますね。

お客様側の技術が未熟なときにプロが指導してくれたら、あるいは自分独自の表現で自分に自信が持てないというときに、プロが「それいいよ」と言ってくれたら、普通の人が「いい」というよりはるかに説得力があり自信が持てます。

他の誰かがやっていなくても、自分が信頼している美容師さんが「いい」と言ってくれば、じゃあこれでいいんだと、社会にその格好で出ていける。でも、どうやったらそのヘアスタイルやメイクができるのか。自分ではうまくできないから、それを教えてくれる人がやはりほしいです。

それもわざわざ都心部に行かなくても、身近にそういうプロがいればありがたいですね。

**阿部** 潜在的には頭のてっぺんからつま先まで、すべての美のプロデュースするのが美容師の仕事だと思うんですが、髪だけ、着付だけ



東京・板橋区加賀の資生堂美容技術専門学校で

※Beauty Opinion & Communication Club の許可を得て掲載しております。

(この画像は、当該ページに限り Beauty Opinion & Communication Club の記事利用について許諾いただいたものです。)



と部分だけをやるようになって結構  
久しいですね。

専門化ということですが、逆に  
これからは総合プロデュース機能が  
必要になるかもしれません。

**石田** 本当にトータルで教えてくれ、  
創ってくれる。アドバイスもしてくれる。  
そんな人がほしいし、そういう人に  
お願いしたいですね。

### 姿かたちに関する主治医的 存在が求められるのでは

—これからの美容師は、どうい  
うところを研究し努力したほうが  
いいと思いますか？

**石田** 個人にとっての美をトータル  
で提案してくれるパーソナルスタイ  
リスト、っていう人がほしいですね。  
求めている人は少なからずいると思  
います。毎週、毎月とは行かなくても、  
年に何回かはきつと行くと思いま  
すよ。

**阿部** 美容に関してワンストップサ  
ービスができるかどうかということ  
ですね。美容に関しての主治医とい  
うか。私は最近、たまたま知り合い  
のお医者さんができたので、目  
から何から全部その先生のところ  
に行って相談しています。

それと同じように、姿かたちの  
ことは、ここに行ってこの人に相  
談すればいい、という美容室、美  
容師さんがいるといいと思います。

—阿部さんのお母さんは、地  
域ではそういう主治医的存在では  
ないですか？

**阿部** もう年ですけど、寝たきり  
のおばあさんのところに呼ばれたり  
してます。老老美容ですね(笑)。

田舎の場合、美容の主治医的  
面もあるのかもしれません。「帯  
留ちよっと貸して」とか、「衿付  
けてどうやるんだっけ?」「貸  
してみな。やってあげるから」  
——そういうことで、細々とも  
やって食ってらるみたい  
ですけど。



写真提供/「復興の狼煙」がスタープロジェクト

### アンチエイジングから スロービューティーへ

—これからの化粧・美容はど  
ういう方向に進むのでしょうか。

**阿部** 化粧・美容の未来は可能性  
が広がっていると思います。化粧の  
力・美容の力は、ますます文化や  
健康に貢献していくでしょう。

**石田** 超高齢社会の今、私は改  
めてスロービューティーを提唱  
したいと思います。

今までは若さだけが美の必須  
条件でした。それを唯一の価値と  
して、加齢に対抗するアンチエイ  
ジングという即効性だけを求めて  
いても、人は年齢を重ねると必ず  
衰えていくから、安心や幸せは  
遠ざかっていきます。

だからこそ発想を転換する必  
要がある。加齢はあくまで自然  
現象。加齢を前提とした美、人  
それぞれ・年それ

ぞれの美しさを求めて、一歩  
ずつ着実に積み重ねていく。そ  
れがスロービューティーです。

即効ではなく、そうした年月  
の積み重ねでQOL(Quality Of  
Life)を向上させることが、美  
しく幸せな人生の道ではないで  
しょうか。

**阿部** 心理学から見ると、化粧・  
美容は人に自信を与えてくれます。  
外見を変えると、だんだんとそ  
れに見合った自分になっていく。  
それは自信やプライドに支えら  
れているからです。

石田さんの言われるスロービ  
ューティーで、人それぞれ・年  
それぞれの自信、プライドが  
生まれるのはよくなりますね。

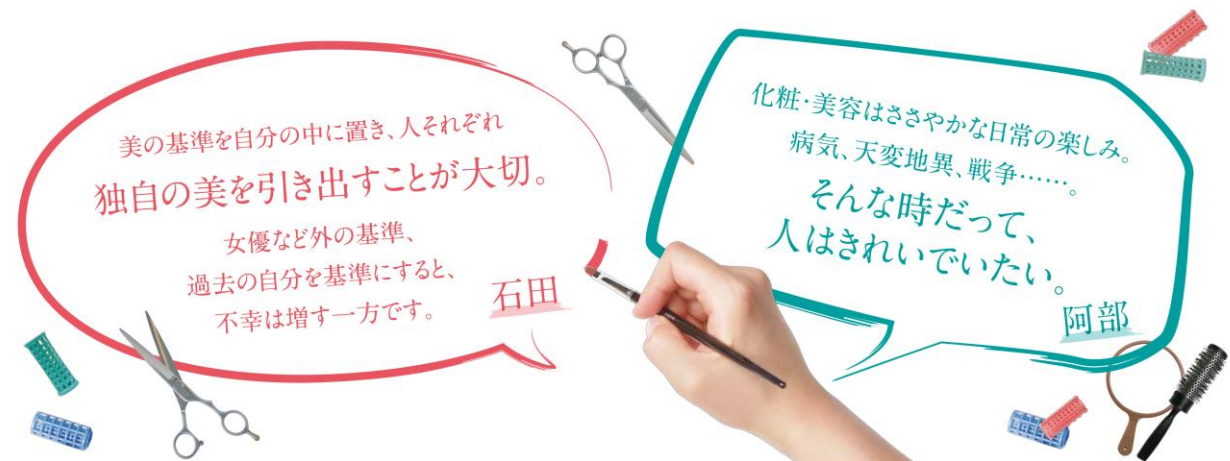
**石田** 日本社会は美の基準が  
ごく狭い範囲に収められています。  
女優、タレントなどを美の基準  
に置き、みんなが同じような顔  
、体形を目指して化粧・美容に  
励む。

このように、自分の外に美の  
基準を

置き、それに自分を合わせると  
自分は欠点だらけに見え、自己  
評価が低下します。結果、マイ  
ナスをゼロにする欠点修正型の  
美容が主流になる。人はみな、  
顔、体が違います。それを活  
かしながら、自分ならではの  
表現をすることで、人は幸福  
へと導かれるのではないかと  
思います。

美の基準を自分の中に置き、  
人それぞれの美しさを引き出す  
ことが大切です。外の基準、あ  
るいは過去の自分を基準にす  
ると、不幸は増す一方です。だ  
からこそ、人それぞれ、年それ  
ぞれのスロービューティーが  
大切。美の基準は多様化してい  
る。これからの化粧教育、美容  
教育にはスロービューティーの  
発想が大切です。

人それぞれ、年それぞれの美  
しさを見つけて提案する——  
それが、超高齢化社会の中で、  
これからの美容師さんに求め  
られてくることだと思います。



美の基準を自分の中に置き、人それぞれ  
独自の美を引き出すことが大切。

女優など外の基準、  
過去の自分を基準にすると、  
不幸は増す一方です。

石田

化粧・美容はささやかな日常の楽しみ。  
病気、天変地異、戦争……。  
そんな時だって、  
人はきれいでいたい。

阿部

※Beauty Opinion & Communication Club の許可を得て掲載しております。

(この画像は、当該ページに限り Beauty Opinion & Communication Club の記事利用について許諾いただいたものです。)